

事務事業評価表 平成22年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 商業の振興
 基本事業 施策の総合推進

事業名 **内水面水産資源振興事業補助金**

[0084]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 江別漁業協同組合
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 漁協のヤツメウナギ、ワカサギ、川エビなどの漁業資源の確保を目指す繁殖保護事業について補助を行う
	(事務事業の内容、やり方、手段) 江別漁業協同組合に対する補助金
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	組合員数	人	27	27	29	29
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	80	180	180	180
活動指標2						
成果指標1	漁業協同組合の事業実施数	事業	6	7	7	7
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	80	180	180	180
正職員人件費 (B)		千円	419	836	830	1,249
総事業費 (A) + (B)		千円	499	1,016	1,010	1,429

費用内訳	
21年度	負担金 補助及び交付金 180千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	<p>新規事業立案根拠とデータ 漁獲高は、上流における浚渫工事やダム建設などの影響も受けるので成果指標からは単純に評価できない。放流魚の生存率など詳細については、現在も調査がつけられており、推移を見守る必要がある。</p>
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・根拠は？

漁業者の保護ばかりでなく、市の「名産」であるヤツメウナギの資源保護を図ることは、関連する商業やイベントの振興にも繋がることから、妥当であるといえる。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・根拠は？

当事業による補助金は小額であり成果に与える影響は小さいが、ヤツメウナギ等の資源保護を図ること自体の上位貢献度は高いといえる。資源が枯渇状態の現状では基本事業への上位貢献は難しいが、全国的に希少な存在となっているヤツメウナギの資源回復は基本事業へ大きく貢献する可能性を持っているといえる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・根拠は？

資源の減少の要因は様々な説があるうえ、資源の回復には、長期的な対策が必要であるため、現時点で、目に見える成果はあがっていない。しかし、平成16年度より道の機関による調査・研究がはじまっており、その成果をふまえて、専門機関が取り組みを継続している。これらは10年、20年といった単位で効果が期待されるものであり、現時点での成果は指標として現れていない。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・根拠は？

当事業による補助金は小額であることから、当補助金の額内で成果向上の余地を計ることは難しい。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・根拠は？

小額補助であることから算定できない。